

01 小泉八雲記念館

八雲の直筆原稿や初版本、愛用の机や妻セツの品などを展示し、八雲の生涯や功績を紹介している。



(施設HP)

02 小泉八雲旧居

八雲とセツが暮らした武家屋敷で、松江で暮らした最後の5か月間をここで過ごした。八雲が愛し、作品にも著わしている庭は当時のまま保存されている。



(施設HP)

03 武家屋敷

小泉セツの実母小泉チエの実家である塩見家がかつて居住していた屋敷。屋敷の内部では当主の部屋、奥方の部屋、台所、刀筆箱(かたなだんす)、奥方の化粧道具、台所道具や子どもの玩具など、武家の建築や家具を見学できる。



(施設HP)

04 城山稲荷神社

松江藩主松平家初代の松平直政が勧請した神社。八雲は境内を囲む石の狐を大変好み、よく訪れていた。当時、八雲は耳の欠けた大きな石狐を気に入ったと言われている。

05 普門院

松江開府の祖である堀尾吉晴が松江城鎮護の祈願所として開山した寺院。近くの橋は怪談「小豆とぎ橋」の舞台となった。小豆とぎ橋で謡曲「杜若」を謡うと恐ろしいことが起こるといふ伝説があり、八雲も著書の中で紹介している。



(施設HP)

06 松江歴史館

江戸時代を中心とした松江の歴史・文化を紹介する博物館。八雲作品や八雲が愛した松江の風景も紹介。



(施設HP)

07 カラコロ工房

旧日本銀行松江支店を増改築した食・文化・アートを楽しむことができる施設。



(施設HP)

小泉セツと八雲ゆかりの地MAP



443(しじみ)

数字に秘められた小泉八雲とセツの絆

小泉八雲、セツ夫妻にまつわる物語や、ゆかりのスポットを紹介するサイト

ラフチャリ。

松江シェアサイクル

24時間いつでも乗れて、好きなポートに返却OK!

…主要バス停

…八雲ゆかりの顔はめパネル設置場所

…ラフチャリ。

…堀川遊覧船乗船場

08 島根県尋常中学校跡地

八雲が英語教師として教鞭をとった島根県尋常中学校があった場所。現在は島根県警本部庁舎。八雲は生徒や周囲の人々から「ヘルン先生」と呼ばれ親しまれていた。

09 月照寺

松江藩主松平家の菩提寺。境内にある大亀の石像は六代藩主の寿蔵碑(生前供養塔)で、八雲はこの大亀について、夜な夜な隣の蓮池に飛び込むという伝説を紹介している。



(施設HP)

10 大雄寺

八雲の怪談「鉛を買う女」の舞台。母親が赤ん坊のために幽霊となって鉛を買いに来るといふ物語で、八雲は「母の愛は死よりも強し」と話の終わりを結んでいる。

11 (有)橋泉堂山口卯兵衛商店

安永元年(1772)の開業と伝える商家で、現在の建物は明治時代中期に建てられたもの。八雲がいた当時、松江でビールを扱っていた唯一の店で、八雲は和菓子をつまみにビールを飲むことを楽しみにしていたという。(インスタ)



12 富田旅館跡

八雲が松江に到着して最初に宿泊した宿。八雲はこの宿での最初の朝、松江大橋を渡る下駄の音や水面に映る霞んだ風景などの松江の第一日目の印象を『知られぬ日本の面影』に記している。

13 源助公園／源助柱記念碑

松江大橋をかける時、難工事のために源助という男を人柱にした伝説を、八雲は『知られぬ日本の面影』で紹介している。石碑は昭和14年(1939)に源助を供養するために建立された。

14 島根県立美術館

宍道湖畔に建つ山陰最大級の美術館。世界有数の葛飾北斎作品の所蔵数を誇る。



(施設HP)